

2020年6月5日（金）20時～21時30分

連続カンファ withコロナの時代「シニアの住まい方」はどう変わる？ #2

（敬称略です。なお、発言者名はZoomに提示されていた名称を使用しています。）

佐藤

よろしくお願いいたします。日本全国 & 海外が入ってっていうのはやっぱりオンラインの強みですね。

今日は2回目なんですけれども、withコロナの時代で、コロナの影響を受けての暮らし方とか住まい方をもう1回リデザインしようというのがこのカンファレンスの目的なんですけど、ただ僕と松田さんと松島さんが今回発起人と言えば発起人なんですが、この3人でやるというより、ゲストの方のお力とか参加してくださる方のお力を借りてみんなでリデザインしよう、というのが目的なので、随時ご質問とかご意見とかあったら遠慮なく割り込んでいただいて、皆さんの力をお借りして進めたいと思いますので、よろしくお願いします。

ちょっと牧さんのお話入る前にですね、東京、沖縄、岩手、で繋がっているんで松島さんと松田さんのこの間の様子と言うか、状況ってどんな感じがちょっとお話ししてもらおうかなと思います。

松嶋

皆さんこんにちは、おばんでございます。あの岩手から松島と申します。私は岩手県の八幡平市っていうところでオークフィールド八幡平っていう高齢者住宅をやってるんですけれども、この前回から一週間2週間弱の間にこういう風な取り組みをしました。もしご興味あれば私共オークフィールド八幡平の Facebook ページ見ていただければと思いますが、月夜の晩に、八幡平って人はあまり住んでないので、住んでないというところと怒られますけど、人口少ないのであの人工的な光が少ないんですよ。月の光に照らされてる時に、オークフィールドの外にピアノを持ち出してですね、その私の友人のピアニストがそのベートーベンの月光とドビュッシーの月の光を、月に照らされたピアノで弾くっていうイベントをやったんですよ。

すごく良くて、この感動を皆さんに伝えたい。あの動画も配信してますので見て頂きたいんですけど、要するに外ですから換気十分、皆さんがある程度距離を保って座って、みんな静かに聞いているんですよ。皆さんが話すの我慢してるのではなくて積極的に静かに聞いているんですよ。

なのでつばも飛ばない。そういう完全に三密など全くない状態でつい先日そのイベントをやりました。これはねもう本当にちょっと長くなりますからはしりますけど、本当コロナが来なかったら実現しなかった、ほんと贅沢なイベントでした。あの普通建物の中でね、普通にピアノの演奏会とかやってたんですけど、みんな外で本当に気持ち良く静かになって聴くっていうのはコロナのおかげって言うと、亡くなった方もいるので不謹慎ですが、コロナが来たからこそ、新たな贅沢っていうか豊かな暮らしのあり方を考えられて良かったと思います。そんなことがありました。

佐藤

あのイベントは良かったですよね。僕もオンラインのライブ配信で参加させてもらってたんですけど、今回の話にもあるかもしれないですけど、そういうのをオンラインで繋がれるので、現場の感動にはもちろん至らないですけど、同じ気分を少しでも味わえるって言う。僕も貴重な体験だったなーと。ありがとうございます。

松田さん、初めての方もいらっしゃるので簡単な自己紹介も含めてお願いします。

松田

三菱総合研究所の松田と言います。宜しくお願い致します。シニアの住まいとか、アクティブシニアを専門としてまして、2010年からCCRCの研究をしてまして、岩手の松嶋さん、沖縄の佐藤さんとはこの分野で苦楽を共にしてきてまして、どちらかというと苦の方が多いですかね（笑）。僕が思っているのは、構想とか研究するだけでなく**実践する**、ということですね。自分の座右の銘は100名の有識者よりもひとりの実践者だと思ってまして、松嶋さんも佐藤さんもそれぞれ地域で実践されている方だと思っています。

牧さんはですね、2013年にですね、アクティブシニアの研究をしていた時に、ちょうど牧さんが大学の先輩でもあり、マレーシアのペナンに移住していて、非常に楽しくアクティブにかつ仕事もしているということでお話を伺ったのがキッカケです。

最近は今話される**ITを使ったシニアの社会参加ですとか孤立の防止**とかに取り組まれているので実践者そのものということで、お話をしていただいたということでお願いした次第です。宜しくお願い致します。

佐藤

ありがとうございます。簡単に僕の方もお話しておきますと、シニア向けの住宅をつくってかれこれ20年くらいやっているわけですけど、コミュニティネットといってまゆいまーるシリーズをつくってるアクティブシニア向けの住まいをつくってる会社の創業メンバーの一人で、今はフリーであちこちあちこち顔を出したり引っ込んだりしています。

今日は2回目なんですけれど、牧さんお迎えして、牧さんの方のお話・・・

切断・・・

切れちゃいました。すみません。僕が落ちると言う。

早速牧さんのお話に入りたいと思います。牧さんの活動のご紹介を牧さんお願いします。

牧

こんばんわ。初めての方もたくさんおられると思いますけれど、牧壮です。ちょっと自己紹介させていただきますけども。

私は1936年生まれで**今83歳**で、この中では一番の年寄りかと思います。今日はこういう機会を与えていただきましてね、もう大変嬉しいんですけど、一番ワクワクしているのは何かというと、高齢者の住宅問題って皆さん基本的なテーマがおりなんでしょうけども、私から考えてみるとね、住宅っていうのはやっぱり長い**人生の中でですね最後のチョイスができるのはやっぱり住むところをどうするか**っていう。その最後の人生のチョイスなんですよね。人間っていうのは人生の中でいくつかチョイスがあるんですけど、絶対チョイスできないのが二つ。自分の両親と自分が男に生まれたか女に生まれたか。**これ以外は全部チョイスできる**んですけれども。

最後のチョイスになると、どこに住もうかっていうのが非常に興味があるわけです。私は、20年前にリタイアしてそのあと、どうしようかっていう時に**ネット時代であればどこに住んでもいいだろう**っていうことで、私は**パソコン持ってマレーシアに行って**、それでマレーシアで仕事をしました。今でいうテレワークの権化でした（笑）。

75歳で日本に戻ってきて考えたことは、これからの社会はネット中心になきゃいけないと。ところが当時シニアはですね、ネット怖いとかですね、何のためにやるんだとか、そんなものやなくても生活できるじゃないかとか言われていたんですけど、そうじゃないよっていうことでインターネット・オブ・シニアを提唱して、今法人をつくって、自分ひとりじゃどうしようもないもんですから、シニアをまずインターネットでつなごう！そういうことでやっております。

今回もですね、コロナの問題があってニューノーマルいう新しい暮らし方っていうものが要求されているんだろうと思います。その根底はデジタル社会、**要は過去のアナログ社会の延長線上に未来の社会が、新しい社会があるんじゃない**ということですね。まさに社会全体が、世界全体がデジタルベースの世界に乗り出すときに、いわゆる**デジタルデバイデッドシニア**っていうのがいっぱいいる、ということが**現実**なんですよね。そんななかでやっぱりこれからの**シニアは何が心配か**というと、**自分自身が長生きして、孤立・孤独になりつつある**。そういう人をどうやったら救えるのか？それからシニアは結構、経験・知見を持っているんですね・・・

切断・・・

松嶋

2, 3年前に、オークフィールドでタイの学生とですねテレビ電話でつないで、オンライン講義みたいなことをやったことがあるんです。そしたらそのタイの方はそもそも雪を見たことがないということで、雪のこととか色々と連携をして、楽しんで。オークに住まわれてる方も80代から90代の・・・

電波不良・・・

テクニカルなことしたわけではないですけど、今風の技術を使って海外と繋がって、僕はその場にいなかったんですけれども、すごい喜んで、タイの子供達も喜んで・・・

電波不良・・・

松田

ipadを使って海外の学生と日本語で会話をすると。タイの学生はリアルな日本語を勉強して嬉しいし、高齢者は遠い異国の地の学生がたどたどしい日本語でも一生懸命しゃべってくれると嬉しいということで。まあそれが高齢者住宅のアクティビティというかコンテンツで、非常に良い相乗効果を生み出してますよね。

佐藤

牧さんのお話って、やっぱりあれですよ、その自分の住む場所とかをチョイスする時自由度を得るためにはそのデジタルの使えるっていうのは非常に大きな武器になるっていうお話ですかね。

牧

あのね、私がね20年前に海外に出て行って、海外に住もうかと思ったきっかけは何かって言うとね、当時やっぱりまだできたばかりのインターネットで、電話回線使ったインターネットだったんですけども、文字だけでのやり取りのね。海外とつながって、海外のシニアから、リタイヤするの？じゃあ俺のところに来ないか？って、ここだったらこういう生活できるよ、とかね。シニアライフの生き方について色々いろんな国の人がいろんな情報くれたんですよ。

各国の年金はいくらくらいもらえるんだって各国比較したんですよ。もちろん為替レートの問題があったんですけども当時。だけどドルに換算するとこれだけあるという、そんなにあるならこっちにこいよと。ヨットハーバーの隣にこんな家があるぞとか、ゴルフ場の隣にこんな家があるぞとか。最後言われたことは何かというと、**結局お前何やりたいんだと。**

それでドキッときて、考えたのが海外に行ってみようと思ったきっかけだったんですね。

そういうワクワクすることを提供してくれると、シニアはすぐ第二の人生、ますます100歳時代になると定年後30年、40年生きなきゃいけませんからね。私の20年前はそういうことでしたね。

佐藤

なるほどなるほど。

前回第1回でもやっぱり生き様とか死に様って言葉も出たりとか、今回の自粛期間でいろいろ見直す機会になったんですけど、シニアの方々もやっぱりそれはそんな感じだったんですかね？自分を見直したりみたいな期間。

牧

年寄りには社会から支えられるもんだ、っていうのが底辺に合ったんですよ。

介護保険があるとか、社会におんぶにだっこでいいと思ってたんですよ。最近はそのなくなりましたよね。**最近ますます自立型になってきましたから**。それは大きな違いですよ。

佐藤

この自粛期間、コロナの時に、先ほど始まる前にズームがブームになるみたいな話をしていましたけど、デジタルデバイド、孤立してた人達も今一生懸命こういうツールを使いこなそうみたいなものってのは広がってきてるんですか？

牧

あー。すごく変わりましたよね。なぜならばね、ソーシャルディスタンスっていうのがコロナではやりましたよね。**シニアから見るとソーシャルディスタンスっていうのは社会からの断絶**なんですよ。家にいなさい、外に出ちゃいけない、家族とも接しちゃいけない、一緒に飯食っちゃいけない、これこそソーシャルディスタンスなんですよ。

物理的な距離じゃなくて、それはもう精神的な距離なんですよ。これで参っちゃったんですよ。今のシニアは、**長生きの最高の要因は社会とのコネクションだと世界的に言われていたことが、それが絶たれてしまった。**結局それで残されたのは何かっていうとネットだったんですよ。私がずっとシニアは使わなきゃだめだよって言ってきたのはそのことだったんだけど、2, 3年前からこういっても誰もあまり聞いてくれなかったんだけど、このコロナでそうだよなって言ってくれる人が増えているのは事実。

佐藤

Social Distance が社会との断絶っていうのはショッキングですけど事実なんでしょうね。松嶋さんが前回 Social Distance が心の距離を明らかに生んでいるっていう発言がありましたけど、そういうことですよ。

松嶋

そうですね。あのまあ僕はあの普段医者なんですけども、あの今のきなみ・・・

電波不良・・・

家族と会えないこととかがやっぱりね、結構認知症だけじゃなくて**メンタルにかなり影響を与えてる**って、今日も一人診察してよくわかりましたね。だから施設に、施設の考えもよく分かるけれども、もう少し家族との面会時間を作ってあげたほうがいいよって今日言ってきたところで。

まさには残念ながらあのまだネット使えないお年寄りというか認知症の方々もいっぱいいて、そういう方々は本当に今どん底っていうか、もう本当に物理的、そして心の距離もあって大変な状況になってますよね。

でもあの案外その私のやっぱり仲間と言うか同業者が、iPad とかを使ったオンライン面会とかっていうのね頑張ってる先生方は何人かいるんですよ。

それはね結構、これどうかなと思ったんですけど結構いいみたいで。

電波不良・・・

牧

今さら何やんの？ もう一つの障害は、それはそれでやろうと頑張ってるんだけど、どっかで引っかかるんですよ。なんかねれないことなもんだから、変なメッセージが出てきたとか。**そこで挫折**する人が多いんですよ。だから、入り方と挫折を補うためのサポートができれば、**シニアは安心安全に使えるネットということを守ってあげれば社会にすごく広がってくる**。と私は思っています。私の経験上ですね。

佐藤

今日参加してくださってる方もそのサポートだったりとか、どういう風にやっていけば広がっていくのかって、参加者の川邊さんから、いきなりリテラシーを上げるのは難しいかもしれないので、どういう風にサポートすればいいのかっていうのはあったんですけども、そこら辺で、僕たちがやれることとか、どういうサポートすればもっと広がっていくのかみたいなことってありますかね。

牧

一番大事なことはね、シニアの心配ごとに寄り添ってあげると。**技術を教えるんじゃなくてこれ使ったらいいよって押し付けるんじゃなくて。生活に困ってること、あるいは孫とお話したいとか友達作りとかね、シニアにはいろいろやっぱりアナログの世界の限界があります。個人差があるので一概には言えないですけど。**それに寄り添って、じゃあこれやってみたらどう？ガラケー持っている人にはスマホを使ってみたらどう？っていうのも一つだし、スマホも電話だけで使っている人もいるので、こんなのができるよとかね。そのちょっとした寄り添いがあって、困った時に、こんなこと起きたけどどうしたらいい？っていう時に同じ質問を何回も受けてあげる。**昨日教えたじゃない、もう忘れたの？は禁句**なんですよ。これはガクッと来るんですよ。家族からよく言われるんです。息子に聞いたら、もう忘れたの？親父ばけたんじゃない？って（笑）。そういう意味の寄り添いが一番大事であるし、私も教室いくつか持っていますけど、**教室のルールの第一番目は、分からない**

時はココに持ってきてください、おんなじ質問何回でも良いですよ、という辞める人は一人もないんですよ。そうすると他の人も同じこと思っているんですけど、今さら聞けないなと思うことが仲間も一緒だと思うと安心できるんですよ。これもそういう雰囲気作りで特殊なことをやっているとは思わないです。

松田

興味あるけど一歩踏み出せないとか、行ったんだけど聞くのがちょっと恥ずかしいとか、そういうシニアをどう巻き込むかがポイントだと思っていて、牧さんのお話で印象に残っているのは、そういうITの教室をやるときに教えかたがポイントだと。

鎌倉のシニアはおじさまがそもそもインターネットとは？とかWi-Fiとは？とかから始めちゃって（笑）、島原でしたっけ？**島原は女性がゴールを見せて、孫とやり取りしようとかゲームしようとか、教え方が全然違って。**

教え方とかでポイントにしているところはどこですか？

牧

教えるってことよりも一緒に悩んであげるとか寄り添ってあげることですかね。自分もそうだったんだよって一言で安心しますよね。シニアは一回じゃ覚えられない。頭で覚えようとしなくて、**まず使って手で覚えなさい**ってようにはしていますね。タップしなさいって。タップできないシニアたくさんいたんですけどね（笑）。タップって日本語でなんていうんですか？って（笑）。そういうのが現実なんでね、そこを寄り添ってあげると、どんどんいきますね。

佐藤

うちの母も二度タップしちゃうんですよ（笑）。

うちの母も85になるのか。今年85になりますけど、あのやっぱり LINE と Facebook を使えるようになって、YouTube も見れるようになって、そうすると全然違いますよね。

牧

それが大事なんですよ。そこまで来てくださると、行くんですよ。そこまでなかなか来れないんですよ。

佐藤

もうガラケーのメールは打てないって言うんですよ。使い方が難しくて。でも LINE と Facebook はやれるんですよ。

牧

だからその方がいいですよ。いまね、こういっちゃうと問題になるかもしれないけどdocomoとかAUとか行くでしょ。そうすると**スマホじゃなくてらくらくフォン買わされる**んですよ。 아이폰買ってこいっていうんですけどらくらくフォンを買わされて帰ってくるんですよ。なんでって聞くと、**同じだって言われたっていうんですよ。こういう社会なんですよね。**そういう現実も踏まえて対応を考えないと、一概にこうやれば問題解決しますよっていうのは難しいんじゃないかなと思いますね。

佐藤

だからあの僕も**スマートスピーカー**を今使い始めてるんですけどね、僕が作るシニア向けの住宅にはスマートスピーカー、Amazon Echo のモニター付きのやつをもデフォルトで入れるようにしたらコロナになっちゃったんですよ。スマートスピーカーでも随分変わりますかね？

牧

ものすごく変わりましたね。私も使っていますし、私の仲間にもこれ使わせたらですね、**デジタルはいやだとか俺には関係ないって言っていた連中が友達感覚ですよ。もうデジタルっていう概念じゃなくて仲間（笑）。**特に一人暮らしね。

もう朝起きると早速スマートスピーカーと会話ですよ。今日の天気は？とか今日のニュースは？とか。それから目覚ましの代わりですよ。明日の朝6時に起こして、とか。もう秘書なんですよ。そこから入るとデジタルが怖くない。

佐藤

あー。なるほど。**入り口として。**

牧

そう。入り口としてね。どんどんどんどん、**じゃあこんなことできない？っていう欲求が出てくる**んですよ。そういう**自発性、自発的な思いにどうやって持っていくか？**

デジタルの世界はそれがあるんですよ。**ワクワクさせる**んですよ。今までの社会からシュリンクしていくシニアじゃなくてワクワクさせてくれる。**そのワクワク感を持ってもらう。それも寄り添いが最初のキッカケじゃないかな**と思いますよね。

佐藤

普及させていくのに何が課題と言うか、松田さんがおっしゃるように教えてくださる人が少ないからなかなか広がらないのか、全くそういう世界に行かずに閉じこもっちゃってるから情報がそういう方に行き届かないのか、色々あると思うんですけど、どこらへんが課題なんですかね。

牧

課題はね、やっぱり身内ですよ。身内が一番キーですね。

佐藤

（笑）。身内が障害になっているんですね。

牧

障害ね（笑）。キーは身内とか友達。自分の仲間。同年代の。**そこに一番の安心感があるんですよ。だからパソコン教室とかカルチャーセンターに行って勉強してこいって言うんじゃない。**

佐藤

普段集う場とか普段会話を交わせるところに、なにそれ面白そうね？ みたいな興味を引くような何か自然なものがあればいいわけですね。

牧

一番すごかったのはママ友の集まり。勉強会やると7割か8割女性なんですよ。サロンで気楽に仲間が話ができる、**孫の写真を見せあってね、それどうやってやるの？ 私もやりたい**、っていう感じから、最後は自分の旦那を説得するわけですよ。あんた家にいてテレビばかり見ててもダメよって（笑）。

佐藤

今日ご参加してくださってる方にも、これ牧さんのご縁だと思うんですけど、おしゃべりサロンをやられてるという沖原さん。沖原さんなんかもこちら辺の現場のお話とか、ちょっともし参考になることあったらお話いただければと思うんですが。

沖原

はいあのー私あのーおうちの関係の方の会だって今日お伺いして、一番お伺いしたかったのがですね、シニアの方で **wi-fi が飛んででないお家**ってどのくらいあるんでしょうか？ あのブレーキの一つとしてご家族のブレーキがかかるもちろんあるんですけども、ご本人の今つかえている通信環境の中で、その**やりたいことができるのか**っていうの**皆さん結構気になさる**んですよ。

そういった時に、あのご自身が入られている**プランが何かっていうのも、もうお店に行かないとわからない**。あとはあの**息子に聞かないと娘に聞かない**とか。そういうことでその例えばズームでおしゃべりするのに、これぐ

らの容量がかかるんですよと言ったところで、それ以外に何ををしているかによって**足りるかどうかどうかっていうのはこっちで断言できない**ですよ。

佐藤

なるほどなるほど。それもハードルになるわけですよ。

10日過ぎると急に遅くなっちゃうとかね。

沖原

そうですそうです。

牧

スマホ使っている人とそうじゃない人で対応の仕方全部違いますよね。スマホ使っている人は4G繋がってますから主要なことは大体できますよね。

沖原

できますできます。料金がどれぐらい上がるかっていうのをご心配されますね。あとはあのスマートフォンとタブレットがありますっていう方でそのどっちもが回線契約してあるんですよ。それでどっちがいいかみたいなことをこちらに聞かれるんですけども、こちらで答えきれないところも多いというところはありますね。

佐藤

そうか。契約内容子供に聞かなきゃわからないとかややこしいですよ。

沖原

そうなんです。とりあえずじゃあやめときますか、みたいになってしまいます。

牧

それ多いですよ。自分のスマホとか何かとかがね、OSのバージョンが何かとか全然わからない。だから今言われているのは非常に大きな問題で。だんだんそういうものに興味を持ってもらわないと。 아이폰買って4年も5年もOSそのまま使っている人何人もいますよ。バージョンアップっていうのを知らないんですよ。でもそういう人がダメだって言っちゃだめなんですよ。そうですね、それじゃこうしましょう。それも寄り添いなんですよ。

佐藤

家族が一番の障壁でありでも親が一番味方になってもらわないと困る存在だからややこしいですね。

牧

それで今回コロナで非常に良かったのは、**家族が、離れて暮らしている家族が、親のことが心配だと、ものすごく増えてきました。**

佐藤

なるほど。じゃあ味方になったわけですね。必要だぞと。それはグッドニュースですね。

牧

やっとわかってきたんですよ。反省の弁になってきたんですよ。**今までほっておいていたと。いよいよ親も困るけど自分も困ると。自分が困り始めた分けですよ。断絶の社会で会いに行けない。**

佐藤

様子が分からない。

牧

だから絶好のチャンス。新しい時代というのは、ほんとに大事にした方がいいと思いますよ。

佐藤

そうしたらシニアにアプローチするよりも、その子供世代、僕が今49ですが、そこら辺の世代に親にちゃんとそういうことやりましょうみたいな、子供世代にちゃんとアプローチしていった方がいいのかもしれないね。

牧

それも一つ、それも一つ。意外に身近にいる人が大事なんですよ。

佐藤

それで皆さんが、**子供世代の人達皆さんが教えるの大変でしょうから、私達が教えます**みたいな。

牧

そう。それはある。どっかでねこれ相談乗ってくれる人いませんかとか。僕は川崎なんですけど、私のところはどこです、そういうことをやってくれるところが無いんですよと、地方にそういう場所が無いんですよ。地方ほど住んでいる人との距離が遠いからネットが必要なんですよ。

ところがそこでじゃあ何していいかということに対して、今私も繋がろうとしているのはそういう地方にいる方のご苦勞と一緒に何か考えたいな、というは僕も今どうしたらいいかということですね。

どうしても僕らが考えると都会前提何ですよ。隣行くとパソコンショップがある、あれ買ってきなさい、これ買ってきなさい、っていうと買えるんだけど、ちょっと地方の人と話すとなんかどこで買える？という話になる。いやいや楽天で売ってます、Amazonで売ってますっていてもピンと来ないわけですよ。

佐藤

そうなんですよ。地方の人と都市の人と、前回の話でも一回オンラインで顔が繋がっていると、今は来てくれるなっていう雰囲気では移動はできないですけど、いずれ移動する時に、前回松田さんから長崎県の壱岐市ですか、壱岐市の話で、朝市の状態をオンラインでライブでつないでもらって、食品を買うみたいな活動の報告がありましたけど。

松田

それはまさにこのコロナがきっかけで行けないので、**長崎の壱岐の人たちが朝市を撮って、取れたての魚だとか野菜だとかを見せてくれる**んですよ。そこの農家の方々が結構楽しくて。**バーチャルショッピング**ですよ。バーチャル**逆参勤交代**じゃないですけど。野菜5,000円ですとかみんな結構ぼこぼこ買うわけですよ。魚とかわかめとか美味しくてですね。こういうので消費ってあがるんだなーと思いましたよね。

あとは見せ方が大事で、地元はスマホで撮ってるんですけども、手振れがすごくてですね（笑）。Zoomで見ている人みんな酔っちゃってですね（笑）。そうするとITの会社とか実は制御技術が進んでいたり、手振れ防止でオンラインショッピングを楽しめるっていうのももうすぐできると思うんですよ。まあそんな感じで今動いていますね。

佐藤

なんかこうやっぱり都会でどんどんズームが使えるようになった時に、地方の人たちと繋がれるようになるためには、地方の人たちもどんどん使えるようにならないと繋がれなくなっちゃうんで。

松島さんの周りでなんかそういうの、教室って言うとうちやうやうみたいなんですけど、そういう活動されてる方っていらっしゃいます？

松嶋

なんかあの、そのまま高齢者の為っていうか、そういう教室があつて結構盛況だって話は聞きますけど、どうですかね、全体的には興味はあるんだと思うんですけど、圧倒的にやってないと思います誰も。なんだろうなーやっぱりね、田舎なんですよそこは。

チャレンジ精神がないと言うとちょっとほんとと人生の先輩方から怒られますけど、なんとなく諦め感があって、もう無理無理無理みたいな感じで、いやいや大丈夫だからやってみませんかっていっても、鼻から受け付けないという人が多いので。

でもさっきお伝えしたように、例えばタイと繋がるとねすごく楽しむように、**やって見せてこんなに楽しいよっていうのが分かった、逆に地方なんて楽しみあまりないですから、あらゆる楽しいわねって言って、逆に純粹に飛びついてくる人いっぱいいるんですけど**。今のところはもほんと食わず嫌いで誰もやってないような印象です。

佐藤

さっきのスマートスピーカーみたいなところから入ると良いのかもしれないですね。僕なんかあのシニアの人たちに僕が作ったシェアハウスに来てもらったりすると、Alexa 電気消してって言うと電気が消えるから、あのベットに入ったまま消せるでしょうか。Alexa 足元灯をつけてって言うと足元灯が廊下つくから、暗い中歩かなくていいから転ばないでしょうか、エアコン消してとか、あと佐藤さんに電話って言うと僕に繋がるとか。何これ何これ見たいな結構ね、皆様楽しんで。つつんじゃないけど、意外にこう話しかけるので、なんかそういう楽しさから入っていくの大事なんじゃないかな。

松嶋

なんかあの今国もだんだん補助金とか出すと思うんですけど、スマートルームって言って、カーテン閉めてみたり、室温をやってみたりとか、生活が便利になるっていう視点で多分スマートルームみたいなことをやってみると思うんですけど、僕はあの使いきれののかなってちょっと失礼ながら思ってるところがあって。

それよりも今だから佐藤さんがおっしゃったように、**いやこれがあると楽しいと。便利になるっていう視点よりもあの楽しいのだと**。あとその寂しい時も話しかけ話しかけたら答えてくれるから楽しいのだっていう視点で、行った方が今広がるんじゃないかなと。ちょっと今私のオークフィールドの入居者さんを思い浮かべてですね。楽しいっていう視点でいくと広まりそうな気がしますね。便利だっていうのは確かに便利なんだけど、別にカーテンは自分で閉めればいいし、みたいな。

佐藤

基本的に電話みたいに僕の方からも例えば気になる方にコールをすれば電話みたいなもんですからねスマートスピーカーって。何かなってるからピッとおすと電話に出てもしもみたいなテレビ電話なるみたいな。操作性もシンプルだし。そこから繋がってくのがやっぱり一番いいのかもしれないですね。

ちなみにですけどスマートスピーカー使ってる人っています？参加されてる方で。牧さん使われてるんですね。僕も使ってます。**日本はやっぱりスマートスピーカー普及してないんだな・・・**。

牧

あのねスマートスピーカーについてはね、ある会社が実証実験をやったんですよ。例えばたまブラとかでやったんですよ。やり始めると最初はこれ何？って言っていたのが変わりますよね。それで買っていく人が増えるという。**まず触ってもらう、見てもらうわないとこれね、口で説明してああだこうだいてもね、ほとんどの人がイメージ湧きませんよね。**

佐藤

あ。原田さん、使ってますと。

牧

どうですか？使ってみて。

松嶋

いいですね。文字で（笑）。

佐藤

便利ですと（笑）。

あれですよ**若い人たちは別にスマートスピーカーなんか使わなくてもそれこそタブレットとスマホで全然やれちゃうから使わない**んですけど、シニアの人にとってはそっちよりもスマートスピーカーのが断然便利なんですけど、**若い人たちがあまり使っていないから広がらない**んでしょうね。

松嶋

う〜ん。そうかー。

牧

それからね、もう一つね、そういうものが入ると**地域の行政のいろんな伝達**がですね、

佐藤

あ〜。楽ですよ。

牧

これがね、住民にとってね、**紙で配られても読まない**んですよ。紙つくる方も大変でね。配る方も大変なんだけど。

コロナ問題もそうですけどlineでどんどん情報出すとか行政の方がシニア対策困ってるんですよね。行政を巻き込まないと。民間だけで何か進めようと思っても。もちろん民間も家族もサポート必要なんですよ、必要なんだけど、行政がそれをやるとなると家族も友達も力が入る。地域の行政を巻き込んでやれたらひとつのキッカケになるんじゃないかと思いますけどね。

佐藤

そういうのに繋がってれば都会からちょっと別なところに住むって言っても、子供達と離れるとか、なんかそういうこうちゃんと繋がってる感があれば、住む場所も少し自由度が出たりする可能性大いいですよね。やっぱりこれ松嶋さん、全住戸じゃなくてもいいと思いますけど、少しスマートスピーカー導入するの検討しましょうよ。

松嶋

いや、もうすぐやろうと思って（笑）。今あのお聞きしようと思ったのはどこのメーカーがいいんでしょうか？

佐藤

僕はAmazonエコーがおススメです（笑）。
原田さんどこの使われてます？

原田

Googleです。

佐藤

牧さんどこの使われてます？

牧

僕もGoogleです。

佐藤

僕はモニターがついてるので、アマゾンエコーのエコーショー5っていう1万円くらいですけど。

牧

要はね、そこにやっぱりアプリとしてね、つけてくれるシニアライフ。一般的なスマートスピーカー、若者が使っているからこれシニア使いなさいじゃなくて、シニア独特のアプリが使えて、日常のシニアライフにフレンドリーなそ

これまでシステムを開発してくれるところが少ないんですよね。後は自分でやんなさい、って突き放す的なものは多いんですけど。

買った後の、パートナーとしてのそういう、技術・アプリっていうのはどんどん進化していきますから。寄り添ってアプリをつくっていくような時代ですから、そこをサポートできるようなビジネスをしてくださると、シニアも安心だね。だからシニアを勉強して欲しいんです。ITメーカーさんに。シニアのこと分かってないんですよ。何に困っているかとか。

用語一つとっても横文字は無理ですよ。ちょっとしたところの寄り添いがあると安心して買えるんですよね。

佐藤

原田さんから、気分転換と、朝音楽聞かせて、ニュースを聞かせてから始まりますよと。それができますからね。本当声だけで。

牧

僕はね、朝ね、藤山一郎の歌聞かせてだね（笑）。

佐藤

Amazon プライムなんてほんと月500円くらいなので。僕もあのボサノバかけてとか言う勝手にかけてくれるし。

牧

それとね、今度ね10万円ではないですか。シニアに聞いているんですよ何に使うか。そうすると使い先が無いっていうんですよ。それじゃスマホ買いなさい、ipad買いなさいって言ってるんですよ。ITの今まで買えなかったやつ買ったらどうですか？と。それも一つのきっかけになってくれるといいなって。

80近い年寄りでもね、1万円くらいのスマートスピーカー買うのでもバジェット奥さんが握っているから

（笑）。説明ができないって買わなかったけど、ひとり10万円もらえるとするとじゃあ買うか、っていう人でできますよ。

佐藤

このコロナ間で独居の方は、ほんと先ほどのと一番最初の話じゃないですけど、断絶と言うかそこを感じられたと思うので、その人たちとねなんか繋がりたいですよね。

あっという間なんですけど、1時間予定ですけどもちょっと延長させて貰ってと思いますけど。ご参加されてる方とか何かご質問とか、こんな取り組みしてますとかでも何でも構わないんですが、何かありますか。

杉野

福岡県北九州に住んでる杉野と言います。今回たまたまFacebookで目にして、牧さんの本を読ませて頂いて、すごく感銘を受けたので、良く分からずに参加させてもらってます（笑）。**先日60になったんですけど、その誕生日パーティーをZoomでやったんですよ。**

佐藤

おー。素晴らしい。

杉野

2年前から世界一周旅行に行ったりしたので、今、**大人のための世界一周アカデミーというオンラインスクールを60で始めました。**

そのZoomのお誕生日会も本当は北九州の料亭でやるはずだったのが、今回のコロナのことがあったので、Zoomにしたときに、やっぱり周りの**60前後の女性のお友達が使えない方が多かった**ので、ひとりひとりに**全部指導して、何回も練習をして、最終的には55人でみんなで大合唱で誕生日の歌が歌えて。**

佐藤

おー。それはすごいですねー。

杉野

すごく楽しかったんですよ。これを機にZoomを使った人が何十人かいて、私も一人暮らしなんで、今回のコロナでず〜っと人としゃべらないのが結構こたえたので、お茶会やったりとか。教えたらみんな楽しいと。

佐藤

それすごい。それはあれですか、今回Zoomをやるようになった方々は、ちょっと前だったら、いや無理無理無理みたいな感じの方々ですかね。

杉野

ええ。そうですね。でもさすがに会えないので、Zoomだったら大丈夫だよって説明をして。その前も私が電子書籍を世界一周旅行のことで出しているんですけど、**その電子書籍を読みたいけど読めない**、っていうのもず〜っと電子書籍の読み方から説明をして。本を買ってもらうためには、その前の電子書籍の読み方という使い方というが行くところまで言わなきゃいけないかったんで。

で、ペイペイだとお金もキャッシュレスもすごい良さそうなんだけど分からない。息子とか娘に聞いたら怒られる。何度も同じようなこと聞くと怒られる。

佐藤

やっぱりそうなんだ（笑）。

杉野

私だったら似たような年なんで。私も小学校の先生をしていたこともあるので。それも50過ぎで初めて学校の先生になったんですけど（笑）。そういうこともあったんで**別に何回きかれても気にならないので、それでずいぶん周りの人は変わっていききましたね。**

佐藤

もうこれは、地域包括ケアの必須だな。これは。怒らなくて、どんな百本ノック千本ノックに耐えて教えてくれる人が小学校区中学校区に一人必須ですね。

杉野

それでなんか口コミで、なんかどんどん大変な人がいっぱいきて（笑）。

牧

今朝の西日本新聞、シニアのZoomが大々的に乗りましたよ。福岡。
今福岡の方でしたよね。

杉野

Youtubeもやってます！**還暦Youtuber（笑）**。

佐藤

おー。

牧

新聞がね、マスコミがね、それから我々がやっていることがNHKの地方局にのったんですよ。そうすると反響がすごく違いますよね。やっぱりマスコミがだんだん取り上げてくれるとね、特にシニア問題、Zoomのことだとか新しい問題でつい3か月前にはなかったんですよ。コロナが出る前はなかったんですから。

佐藤

急にですからね。突然ですよ。突然違う世界に放り込まれたような感じですよ。

牧

そこでシニアがこういう使い方しているよっていうのは、ビッグニュースになるんですよ。

これからですよ。これからやっぱりいろんな問い合わせがこれから来た時に、じゃあ誰が受けて受け皿になりますかっていうのがこれからの問題じゃないかなと思いますよね。だからそういうのが沖縄の住宅でだったらこう受けますよとか、岩手だったらこう受けますよとか、そういう受け皿があちこちに出てきて、横に繋がると相乗効果が出てくるんじゃないですかね。

佐藤

今岡本さんからAmazonエコーどれがおすすめですか。お。これはスマートスピーカーを使おうっていう積極的な。いいですね。

牧

いいですね。

岡本

はじめまして。なんだかどこから流れてきたのか分からないんですけど、あのさっき回ってきてつながるかなと思って試してみたら繋がりました。よろしくお願いします。

佐藤

よろしくお願いします。スマートスピーカーを使ってみようという。

岡本

はい。皆さんがおススメされていたので、今ipadで見ていたらいろいろあって。初心者にはどれがおススメですか？第三世代というのと画面が付いているのいろいろあるんですけど。

佐藤

目的によろしいと思いますけどね。僕はその画面がついてるほうがシニアの方々と直接やり取りするアレなので、画面があると僕の顔も見れるんで。画面付きの Amazon のエコーショー5っていうの僕は今使ってます。1万円くらいで買えるんで。

牧さんはGoogleですよ。

牧

僕はGoogle。それからiPhoneでもSiriで結構できるもんだからね。いろんな使い方があって、まず皆さんが使って、それを皆さんに伝えるのが良いですね。

佐藤

iPhone なんかもあれですもんね、緊急電話とか対応できますもんね。例えばなんか SOS 出したら繋がるんじゃないかってiPhone って。別に119とかやなくても。

牧

だからやっぱりシステムって日進月歩で、どんどんシニアフレンドリーにはなりつつあるんですけども、逆に言うとそういう情報がなかなかシニアに伝わってないって言うかね。

で、そういうのは検索するといろんな人がいろんな情報を今 YouTubeで出してくれてるのはいいんですけども、シニア向けっていうのがないんですよ。

佐藤

シニア向けの YouTube チャンネルって何でできないんだろうって。自分がやればいいのかとも思うんだけど。

牧

私もね、最近自分でYouTube発信しようと思っているんだけど、時間がなくてできてないんだけどね。

佐藤

じゃあ、みんなでYouTubeチャンネルつくりますか（笑）。

岡本

YouTubeチャンネルつくってください！

さっきWi-Fiの話題が出ていたんですけど、私高校で教えているんですけど、今コロナで解除されましたけど学校に行けない時に、オンラインスクールで生徒とやり取りできる人とそれが出来ない人と差があって、Wi-Fi環境が家でつながっているかどうかというのがすごい大きなポイントで、私もよく分かってないんですけど、昔からアップルの製品を使っていたので、アップルのタイムマシンみたいなのがあって、家の中にタイムマシンがあるとWi-Fiがつながるようになって、理屈は良く分からないんですけど。

佐藤

えー。なんだろう。

牧

デザインじゃないの？

松嶋

タイムマシンはそれがそれ自体がルーターじゃないんですか？バックアップですけどルーターになってるんですよ。うちもそうです。

岡本

自宅だと使い放題で、Amazonの映像なんかもみれるんですけど、**外に出たときにどうするか**っていうので、今ドコモと契約しているんですが、docomoがすごい性能悪くってあまり大きな声で言えないんですけど。Wi-Fiも使い放題のWi-Fiを別に持ってるんですよ。Wi-Fiの月々払えばどこでも繋がるので、このdocomoの契約は辞めようと思って。

佐藤

それ分かるなー。先ほどの沖原さんの話じゃないですけど、**僕もシニアの相談のったときに、家のWi-Fiがdocomo光なのかau光なのかヤフーBBなのか、さらにセットになっているのが何かでどれが割安かもすごい複雑で。**

岡本

そうなんです。だからプロバイダーのところに行くとその関係の者をおススメされてしまうから。

牧

そうそうそう。そうなんですよ。

佐藤

ですよ。めんどくさくなっちゃいますよね。

岡本

だからもうdocomoはいいやってなっているんですけど。あと実は今ガラケーなんです。iPhoneを買いたいと思っているんですけど。

佐藤

買いましょう（笑）。

岡本

頭が混乱するんですけど、中高年なので（笑）。docomoに月々3千円払わなくても、アップルストアでちっちゃいシムフリーのものをかってと最初はその予定だったんですけど、最近、パソコンがクラウドが優勢になってきて、外で仕事しようと思ってもネットに繋がないと仕事にならなくなってきて。喫茶店でドコモの000の使い放題で、オープンのは拾わないように言われているので、どうしたらよいかと混乱してます（笑）。

新幹線の中で途切れないWi-Fiみたいなのもあったり、今は変わっているみたいで、とても分かりづらくて。もうごちゃごちゃで。フィンランドみたいにネットは使い放題って国が決めてほしいですね。マスクのお金があるんだったら（笑）。

外に行ったらどこにいても安全に使えるようにしてほしい。

なんかすみません。

佐藤

それおっかい課題だと思います。親子割りとかもあるから。

岡本

docomoを何十年も使ってますから離れたくないんですけど。でもちょっと見直さなきゃいけないかなって思ってるんです。

佐藤

それは牧さんにぜひ個別で相談してみてください（笑）。

牧

もうおっしゃる通りでね。総務省にはね、少なくともシニアにはWi-Fi無償にしましょうと。なぜならね、シニアはビジネスで使わないのでそんなに使わないんですよ。一律3,000円とか4,000円とかけしからんと。

佐藤

それやっただけでぜんぜん変わりますよね。結構大きく変わると思うな。

牧

無償にしろって言ってるんですけどね、やっぱりね管轄が違うもんだからね、行政のね（笑）。

佐藤

松田さん、こちらへんって難しいんですかね。

松田

僕たちががんばることと、国が頑張ることと、二つあるときに、制度設計でね、**シニアはスマホを配布すると、義務化すると。スマホを持っているシニアは医療費を安くしますと。持っていないと医療費も高くなって、住民税も高くなると。ぐらいのことはするべきだと思うんですよ。インセンティブでね。**スマホを持っていればね恐らくね多分統計取ってみるとZoomで社会参加しているシニアと引きこもっているシニアと医療費絶対違うわけですよ。そういうエビデンスを見せれば、シニアスマホ義務化！持っていない人は医療費高くします！っていうようにすれば。

牧

そうそうそう。サポートしますよ。100%サポートしますよ！

松田

そういう政策をやるべきですよ。

佐藤

経済産業省さんがヘルスケアの事業出してますけど、そうそういう事業になんかチャレンジしてみても面白いのかもしれないですね。ヘルスケアのね、社会実装でしたっけ松島さん。

松嶋

アクティブシニアに対してとか健康経営の補助金なので、いや今まさに同じことを、同じ事が分かんないですけど考えてました。もう全室にスマートスピーカーを配置してiPhone 配って。うちの入居者だったらやりそうなきしますね。楽しく。

佐藤

で、牧さんとかさっきの沖原さんの所とかとオンラインでつながって。お話してみたりとか。

松田

そうですね。僕もね。ほんとに普及させていくポイントで、被災地でね東日本大震災の時に、**仮設住宅にipadを配った**んですよ、引き込まないようにそうしたら配ったはいいんだけど、**孫とやり取りするとか、そういうことを教えずに配っちゃった**から、おじいちゃんはみんなグラビアアイドル見て、おばあちゃんはみんな韓流アイ

ドルみて、**余計引きこもっちゃったんですよ。ただ配りやいいっていうもんじゃなくて、何をするんだっていうその使い方とかしっかり伝えないですよ。**

佐藤

松嶋さん、それ具体的に検討していきましょうよ。

松嶋

そうですね。

佐藤

せっかく松嶋さんと松田さんと僕なので、形に何かやってた方が絶対楽しいし。

松嶋

あの、あれだから、あの、便利よりもちょっと、**便利よりも楽しいってことを視点において是非やりたいな。健康増進にいいよねっていうよりは、楽しくなって暮らしが豊かになるねって言う。**

佐藤

それで物理的な距離を超えていくと。

松嶋

そうですね。

牧

松嶋さんね、こういう事例があったんですけどね。私の仲間で女性で、いよいよ施設に入ると、老人ホームに。それでipad持たせたんですよ。事前に息子に伝えてねプリセットして、ここをポンとやると孫とつながるよーとか、なんとかができるよーとか全部プリセットして持たせて。施設は個室なもんだから、夜九時になると今まではテレビ見てたのが、ipadでねぼーんと孫とテレビ電話始めたり友だちと始めたり。そうすると隣の人、またその隣の人があなたなにしてんの？って。いや私今孫と話してるのよって。それどうやんのって施設に広がったんですよ。それで施設長に僕が呼ばれて話して、どうやったらできるかっていうから、みんなが集まれる食堂の一角に2, 3台ipadおいたらどうですかって。ゲームやったり孫と話したり。ルーター1台入れれば数台使えますからね。月々1万円とか2万円の通信費用で。それいいですね！って施設長もねやろうとしたんですよ。

何かシニアが困ったときに相談できる人がそばにいませんかっていったら施設長が集めてくれたんですけど、ipad使える人がゼロだったんですよ。みんな40代、50代だったんですよ。**じゃあ僕が勉強会やるから、っていったらもう勘弁してくれと。ものすごく忙しくて勉強している暇がないと断られちゃったんですよ。**施設長は自分はやりたいという気持ちはあったんだけど、できないっていうかね。

そういうネットにつながりますよ、っていうのは宣伝文句になるんじゃないかと思ってるんですよ。新しい形の高齢者施設で。だけど現実にならんとするとやっぱりちょっとしたそういう問題が引かかるんで、僕もちょっと困ったなと。

佐藤

現場のスタッフの協力いりますよね。ほんとそれがあれば全然QOLとか上がるんですけどね。

牧

そうなんです。それがあるなしじゃ全然違うんですよ。ちょっとおかしくなった時にこれこうよって。そんな技術の詳しいことは知らなくていいんですよ。タップができなくて長押ししちゃうシニアいっぱい要るわけですよ。

松田

それは分かりますね。クリックが常に震えてて。

牧

シニアはね、そういう人が多いんですよ。

佐藤

そういう時は本当に音声でね、Hey Siri か Ok Googleか Alexaか。それで動いてくれますからね。

牧

そうそうそう。

佐藤

岡本さんとか皆さん、意見くださってますね。やっぱりね負担が増えちゃうとなかなか嫌がる人も多いし。ボランティア。牧さんなんかそういう事やるボランティアの方って多いんですか？

牧

あー。あのね。どういうスペックで募集するか、それが難しいんですよ。僕なんかどうやって集めているかって言うと、シニアに教えるっていうことの意義を持っている人でちょっと技術のことに躊躇しないというか、そういう人をお願いするんだけど、地域の問題とか年齢の問題とかあるのは事実です。

これは僕の個人的な意見だけど、**ボランティアだけに頼るんじゃなくて、やっぱりちょっとしたことが社会的に役立ったことが少しでもいいから何かの形で収入になるとか、その人のためになるとか、そういうのがあるとインセンティブになると思うんですよ。**

佐藤

ですね。そういう意味ではやっぱりシニアで今まで2ヶ月前は使えなかったけど、今使えるようになってこんなに楽しかった！その楽しさを伝えたいっていう方がなったほうがいいってことですね。

牧

いいと思う。

佐藤

そこが、少しでも感謝の声と少しのものがなるような仕組みを地域で作れば、広がっていくってことですよ。

牧

広がっていく。

ある商店街はチケットですよ。その地域で使えるなんていうの？

佐藤・松嶋

地域通貨ですね。

牧

そうそう。地域通貨。そういうの発行して、**わずかだけどコーヒー一杯飲めるとか。そういうことでもすごく違うんですよ。それが地域の活性にもつながるし、そこが集まる場所にもなるんですよ。**普段バラバラで地域が集まる機会がないのに、**ちょっとしたコーヒーショップがそのサロンになる。**みんながipad持ち寄ってあんたなにしてんの？って。ちょっといい方向に持っていくと方法あるんじゃないかなって。

佐藤

なんとなくあのリデザインの感覚は、少し僕らの地域になり、ハウスなり、少しちょっと感覚つかめた感じはします。参加してくださってる方どうですか？そろそろね時間もアレなので。

林

よろしいですか？

佐藤

どうぞ。

林

今牧さんのお話し聴いて、本当に共感する部分がありました。

私実は、3回目の成人式を向かえました。

佐藤

おめでとうございます。

林

先月誕生日だったんですけど。

佐藤

Zoomでやったんですか誕生日会（笑）。

林

コロナの中で2か月間在宅で、そんな中で気が付いたら雇用延長で、そんな中におります。

誕生日を機会に私もFacebookを始めまして、林慎一郎で、今日ご参加のみなさんよろしかったらお友達になってください。

佐藤・牧

ぜひぜひ。

林

あの、実は私はですね。日本の企業なんですけど、まもなく50年を迎える会員制の基礎化粧品と健康食品を販売している会社におりまして、そこにいらっしゃる基本的に代理店販売のスタイルなんですけれども、

代理店の人のほとんどが70歳以上。会員さんが60歳後半で、代理店やっている方の平均が75歳なんです。

佐藤

ほ～。

牧

すごいなー。

林

まさに化石のような企業なんですけれども。ただそのやはりですね。40年前からいろいろその当時なかったビタミンとかミネラルとか特出した製品をずっと摂っていただいていた、健康を維持してもらっていて、そういうこともあって今も続けて頂いている方が多いんですけれども。ただいかんせん、代理店の皆さん70代半ばですので、今までのやり方を。

注文は電話とファックスのみ、集金もニコニコ現金払いのみ。

ただそんなことやっている企業いまごさいませんので、ざんねんながら企業業績は右肩下がり。ただ、このコロナ期間において前年比10%も落とさずに来ています。

佐藤

それがもう強みになっていますねー。

林

ただしですね。今私がこの60歳を過ぎた、雇用延長の私のミッションは、そのアナログの組織にデジタルを投入せというのが私のミッションなんです。

佐藤

なんてドンピシャな！

林

今の世の中が普通にやっているリテラシー、インターネットでの注文、そしてクレジットカードなり代引きなりコンビニ払いなり、そしてお客さんとのダイレクトコミュニケーション、今までは70代の代理店の方が全部代行してアナログでやってたんですね。それを私たち企業と直接やりとりする、その仕組みをつくるのが私のミッションなんです。

このリモート体制の中でもそれに取り組んでいるわけなんですけれども。まさに牧さんにお伺いしたいのが、なんとか60代まではIT環境に馴染んでいただけるんですが、**実際本当にITが必要な方たちは、70後半、80代。まさに独居の皆さん。**さっきのこのコロナで家族がというお話がありましたけれど、まさにそのような方たち。私たちの会員さんは女性の方が大半何です。男性はしぶしぶなんとかしようというのがあるんですが、女性の場合、やっぱりITというアルファベットもカタカナも嫌な人たちなので、ただ実際必要な70後半80の方たちに、ITリテラシーをなんとか分かっていただいて導いていくには寄り添いしかないんだなというのはとても良く分かったんですが、何か他にないのかなと。

牧

ひとつ質問良いですか？

佐藤

林さん。あれ？落ちちゃったかな。

でも逆にあれですね、そういうもう信頼関係あって、そこに物をおろしてるって、逆にすごい強みだから、独居の方にアクセスする術を僕たちなんかはほとんど持っていないくて、そのお客さんにそれこそさっきのスマートスピーカー1台ずつ導入してもらって、なんか楽しく楽しさから入ってもらおうとすごい良さそうですね。

牧

今の林さんですか、質問の応えになるかは分かりませんが、地方にいるシニアから良く問い合わせ有るんですけど、もうネットショッピングしかない。でね、**そのネットショッピングが怖いと。何が？というと分かんない。要するに検索で何か買いたいって言うのだ〜とたくさん出てくるけど、どれが本当に良いのか分かんない。**ネットショッピング使いたいんだけど使い方が分からないっていう人が多いんですよ。これはシニア目線で設計されたものですよっていうものがちょっとでも入ってくれるといいんだけど。

林

戻ってまいりました。

牧

お伺いしたいんですけどね、シニアITリテラシーは遅れているんですけど、ネットショッピングみたいなものに対する興味はね、どうなんでしょうか。それも無いでしょうかね。

林

実際にはネットショッピングをやっている方たち、ご家族も含めていらっしゃるんですけど、**毎月自動的に送られてくる定期購入とか、そういったものには非常にアレルギーを持っている方たち**ですね。

牧

怖いですよ。

林

そうなんです。怖いです。

牧

そういうのは非常に多いんです。だからそういうシステムじゃないよっていう安心安全ということを前面に出さないと。便利を先に出してもあまりついてこないですよ。

不便なことをこうやったら解決できますよ、っていう方向を安全・安心を保証してあげる、というのが大事ですよ。

林

あと、**さっきおっしゃってた楽しさですよ**ね。非常に参考になりました。

佐藤

沖原さんからね、お化粧品とその使い方とかをZoomや動画でレッスンとか意見をくれてますけど。

林

私が考えているのは、その新しいITを使っのやり方を動画にまとめて見ていただこうかと思っています。

佐藤

わかりやすさ大事ですね。そういうことやっていただくと社会的意義高いですね。

林

さっきおっしゃってたYouTube。実は私も2か月在宅の間で自分のYouTubeチャンネルつくったんですが、悩んでいたんで、今日シニア向けというのはすごいヒントになったので何か考えてやってみようと思いました。

佐藤

いいかもしれない。僕が出てるので見て下さいって言うよね（笑）。そうそうそれも大事ですよ半径5 Mの人がやってるっていうのね。

林

そうだった時には、牧さんも佐藤さんも出席よろしくお願いします！

佐藤

いつでも声かけてください！

牧

YouTubeでね、僕の名前検索でかけてみてください。僕が出しているYouTubeあるのでみてください。

林

分かりました。今後いろいろできればと！

佐藤

いや～。ありがとうございます。嬉しいですね。なんかこれで**次のアクションがね少しずつ広がるってすごい大事**だと思うので。

あと参加してくださってる方、何かご質問とかご意見とかありますか？せっかくの機会ですので。時間がもうね、9時半になっちゃって。あっという間だな本当に毎回思うんですけどね。

沖原

沖原です。よいですか？

佐藤

はい。どうぞ。

沖原

先ほどの入居者の方々にオンラインデビューのお手伝いをというお話出てましたけれども、私普段、お電話で遠くにいる方にもご説明を差し上げながらいろいろ操作してもらってデビューのお手伝いを結構させてもらっているんで、もし手が足りないとか人がいないとかいう時があったらお気軽にお声をかけて頂ければと思います。

佐藤

おー。素晴らしい。心強いー。

牧

電話代が大変じゃないの（笑）？

沖原

かけほーだいですので（笑）。

佐藤

でもに**本当に地域地域でね、皆さん素晴らしいことやられている方、結構たくさんいるので、それをやっばりこういう場でも結集できたら、大きなチカラになる**と思いますからね。僕もあの皆さん何か手伝って欲しいと言ってくだされば、何でもやりますから気軽に声かけてくださいね。フットワークだけは軽いので（笑）。

あと何かご質問とかご意見とかどうですか？

僕は今日本当になんとか少しヒントと言うか、次のアクションが見えたなんて気がしてほんとありがたかったですね。松島さん、松田さん、どうですか最後何か。

松嶋

そうですね。あのーちょっと嬉しい誤算と言うか、あのーちょっとやっば難しいんじゃないかなって、**ちょっと僕の方に壁があったなって**。なのでやっば**僕自身ももっと入居者さんを信じてもっとやるべきだった**なって本当に反省してるんですけど、幸いに私がオーナーなので、私の施設に関して言うと、早速ですね、デスクトップは一杯あるんですが今日の話を聞いてやっばりipadかなと思ったので、wi-fi はすでに施設全体通ってますから、iPad 買って、スマートスピーカーもさしあたり何室か試しに入れてみて、ちょっとあのどンドンやってみたいなど。

そこで多分Zoomとかで、**牧さんとかにあの遠方からレクチャーをして頂くと、多分入居者さん達もまた喜ぶと思うんですよ**。リアルに教えてもらうのも楽しいんですけど、いや実は今東京にいる方からこうやって教えてもらうんだよってただそれだけでまず驚いて感動しますから。教え方の工夫をまたちよっとするとですね、なんか結構爆発的に行くんじゃないかなっていうことで。すぐマイビジネスに大きなヒントを得たので、早速やってみたいと思いますので是非ご協力いただけるとありがたいなと思います。

佐藤

参加している皆様、松島さん心が広いので、いろんな実験とか実証の場になってくださいますから、いろんなアイデアとかあったらぜひ松嶋さんに言ってみてください。

牧

いや、松嶋さん こちらからもお願いしますよ。そういう施設があって、受け皿があって。何人ぐらいおられるんですか？

松嶋

まだ15人です。

牧

平均年齢70代くらいですか？

松嶋

80代です。

牧

そういう方とね、Zoomで顔を合わせてね、昔話をするとかね。

松嶋

はい。ぜひぜひ。

佐藤

それで顔馴染んでたらね、やっぱりちょっと遊びに行きましょって話にもなるかもしれないですよ。

牧

この間もある80代の人と戦争体験の話をしてたんですよ。戦争中どこにいてとか、僕は東京にいて爆弾を受けたよーとか。90代の方は戦争に言ってる人がいた。**シニア同士の対話は生き生きしてきますよ。**こどもにもしたことが無い（笑）。仲間が集まってくると話題が無限にある。当時どんな歌が流行っていたとか、**シニアならではの話題がある。**しゅーんとしていたシニアが生き生きとしてきましたよ。そんなもんなんですよ。Zoomの効果とかっていうのは。

佐藤

ぜひこれは。楽しみですね。

松嶋

やります。すぐ。

佐藤

松田さん、どうですか？

松田

キーワードはワクワク感というか、ITは目的じゃないですからね。使ってどういう楽しいことをするかというワクワク感だと。あとはIOS義務化というんですかね。シニアはもうスマホ使わないといけないと。使わないと住民税高くなりますと。五割負担になりますと（笑）。国がね、動き遅いから首長ですよ。市長町長であれば相当強権発動できるので、ほどよい強制力を使うということですね。

あとね、今日やっぱりね、前回も結構集まったんですけど、今回もこれだけいろんな各所の人が集まったのはすごいことだと思っていて、去年ね、松嶋さんと私アメリカに行って、アメリカの在米邦人。日本人。駐在員じゃなくて何十年も住んでいる日本人の人がですねいっぱいいるんですよ。在米邦人自体は70万人くらいいるらしいんですけども。例えば将来ですね、**こういうところでアメリカにいる日本人とつながって、日本の今はやっていることだとか、アメリカがどんな状態だとかやれるとより楽しいんじゃないかな**と思いました。次の宿題としてアイデアが浮かびました。

佐藤

いやほんとありがとうございました。牧さん今日は本当に参考になったというか、あのご参加してくださった皆さんからもね、いろんな意見もらえて。今日は本当にありがたかったですね。前回ももちろんありがたかったですけど。今回すごい楽しかったですね。

やっぱりゲストがいるといいですね。

松嶋

そうですね。

牧

すみません。なんか勝手なことばかり言って。

佐藤

また3回目以降もいろんなゲストの方をお呼びして続けていこうと思ってますので、今日ご参加いただいた方もまたご参加いただけるとありがたいと思います。

牧さん、今日は本当にありがとうございました。

牧

これからもよろしくお願いいたします。何かありましたらいつでもどうぞ。

佐藤

皆さんありがとうございました。

以上